長野救命医療専門学校
令和５年度　第２回　学校関係者評価委員会　開催記録

開 催 通 知　令和６年１月１７日（水）
開 催 日 時　令和６年２月２７日（火）１４時３０分～１６時３０分
開 催 場 所　長野救命医療専門学校　４階実習室
出 席 委 員　委員１１名の内　次の９名の委員が出席した。

地域消防署職員	中村　文彦	東御消防署	署長
地域柔道整復師会役員	石坂　秀司	長野県柔道整復師会	理事・学術部長・東信地区長
地域医師会役職員	森田　幸雄	小県医師会	事務局長
地域中学校長	盛野　憲俊	東御市立東部中学校	校長
大学職員	宮田　暉朗	上田女子短期大学	元教授
教育関係有識者	宮原　信一	上田市立第四中学校	元校長
福祉関係有識者	増田　勝仁	東御市社会福祉協議会	顧問
保護者代表	足立　有佳	保護者会	代表
学生代表	若狭　来夢	長野救命医療専門学校	学生会長

※他に本校教職員下記６名が出席した

学校教職員	中村　哲也	長野救命医療専門学校	学校長
学校教職員	佐々木　大	長野救命医療専門学校	事務長
学校教職員	瀧野　昌也	長野救命医療専門学校	救急救命士学科長
学校教職員	楢原　康之	長野救命医療専門学校	柔道整復師学科長
学校教職員	山﨑　絵美子	長野救命医療専門学校	事務
学校教職員	藤井　彰	学校法人　成田会	事務局長

（本日ご欠席の委員）東御清翔高校　上原　浩子　先生
田中区　　長越　修一　氏

一　開会　　佐々木 大 事務長が開会を告げた。

二　校長挨拶　中村 哲也 校長が開会の挨拶をした。

三、議事　要綱第５条２により校長が議長となり協議に入った。
１　令和５年度の自己評価結果と改善方策（案）の報告
令和５年度前期「学生自己点検結果」について、佐々木事務長が主たる部分について説明をした。

（１）環境整備について

⇒環境教育の一環として、冷暖房の温度設定については、環境基準のガイドライン沿って臨機応変に対応している。

現在、開校以来１８年使用し続けているエアコンに不具合が生じてきていることから、令和６年９月に全面改修を予定している。

（２）合宿交流会について

⇒宿泊場所の電波状況が悪く家族等に連絡が取りにくい、開催時期が入学直後のため、コミュニケーションが不足しがちではないかという意見があった。コロナウイルスによる規制が緩和されたことから、今年度より合宿交流会を再開した。日常から離れ、携帯電話から離れた環境で交流を図ってほしいという目的で開催していることを学生にも理解を得られるよう努めていきたい。

（３）実習について

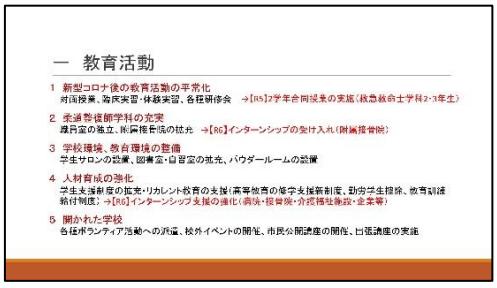
⇒救急救命士学科の校内実習において、人間関係の複雑化により、実習を受講しにくくなったという意見があった。時代の変化に伴い、学生も多様化している。その変化に対応できるよう、日頃から教員の指導力向上はもちろんであるが、学生とのコミュニケーションを大切にし、日々の生活の様子を見守っていきたい。

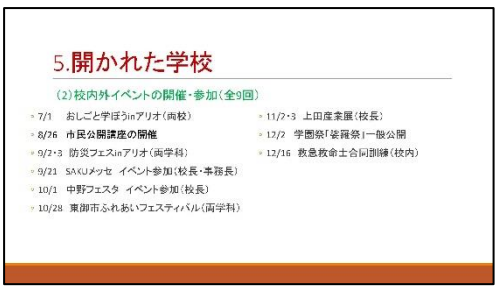
（ 校　　長 ）　３年間のコロナウイルスによる影響は大きく、特に外部実習では実習期間や受入れ人数に制限がある施設もあった。そのような背景から、一部学生の評価にも影響もあるため、着目していただきたい。

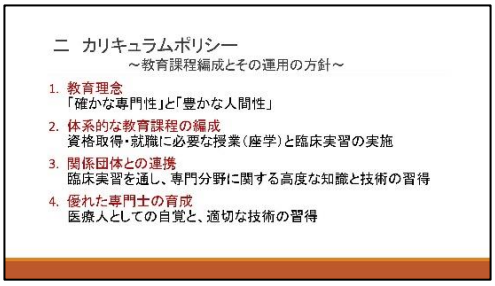
２　自己評価結果に基づく評価

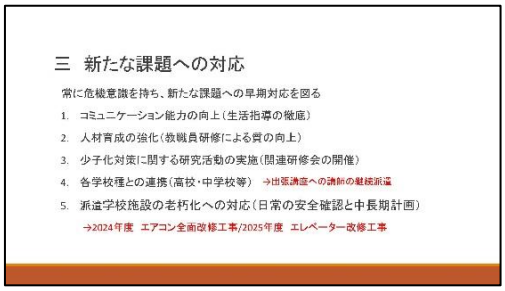
３　学校関係者評価及び改善提言

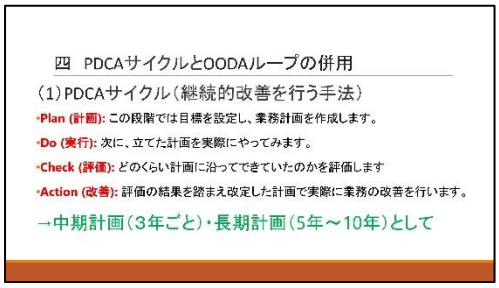
（１）　教育理念・目標について、中村校長が学校要覧と資料をもとに説明した。

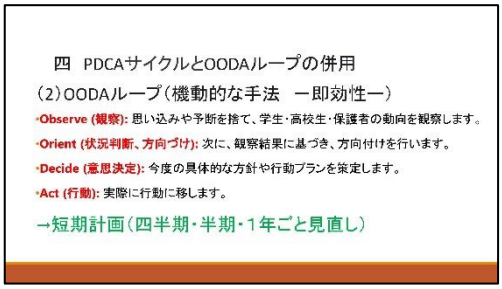












（２）学校運営について中村校長と佐々木事務長より、項目別に説明があった。

① 中期計画について

⇒５年間を１クールとした計画を法人本部を中心に、両学科の実情に合った計画を実施している。

② 組織運営、教務・財務について

⇒規則では明確化されていないが、組織図に基づいて組織編成されている。（学校要覧 P8）

③ 人事・給与について。⇒就業規則に定められている通り。

④ 組織システムについて

⇒配布資料２「学校法人成田会経理規定」に基づいて運営をしている。

⑤ コンプライアンスについて

⇒本校は、救急救命士・柔道整復師それぞれが国の指定規則に基づいて運営している。また、学校法人を中心に「危機管理マニュアル」を作成しており、災害だけでなくコンプライアンスの面においても対応できるような体制を整備している。

⑥ 教育活動等に関する情報公開について

⇒ホームページ（以下 HP）をはじめ、SNS においても学校の取り組み等を紹介している。

⑦ 情報システム化による業務の効率化について

⇒学生数に対する管理面やコスト面を考えると、現状滞りなく実施しているので、費用対効果の点も考慮しながらシステムの導入について、今後検討していきたい。

（３）教育目標

（瀧野学科長）　救急救命士学科　令和５年度以降のカリキュラム変更について

⇒時間数と単位数を確認したところ、３年時の授業時間数が不足していることが判明したため、「特論分野」を設置し授業時間数を補うこととなった。（昨年度の時間数：１０７時間⇒今年度の時間数：１２０時間）変更点は次の通り。

①　２・３年時に選択科目だった公務員試験対策・国家試験対策を「特論分野」として必修科目に変更し、授業時間数を増やした。

従来の法律では、救急処置を行うことができるのは、現場もしくは、救急車内に限定されていたが、一昨年の１０月に救急救命士法が改正されたことにより、病院の救急外来でも実施できるようになった。以上のことから今後病院で勤務する救急救命士が求められることが考えられる。病院勤務希望者は公務員試験を受験する必要がないことから、病院勤務希望者に対する講義を新たに設けた。

②　病院勤務希望者に対する受講科目について

a 病院・医療の基礎　b 重要な病態疾患への対応　c 就職対策講座　d 介護実習

本来、d を２年次、a～c を３年次に実施するとしていたが、準備・移行の都合上、次年度のみ a～c を２年次、d を３年次に実施することとなった。

③　令和５年度卒業生の進路について

⇒卒業生３３名中消防職員１８名、介護３名、警備会社３名、病院２名、公務員（行政）・進学（看護）が１名その他未定（消防受験準備等）が２名という結果であった。

消防合格者１８名のうち、県内出身者も含めた半数が県外の消防署に合格しており、このケースは開校以来初である。また、近年は消防職員採用試験に現役合格する人数が増加傾向にある。

④　コロナウイルスの蔓延により、学科閉鎖となった時期以外は、このカリキュラムに基づいて授業を行っている。

（楢原学科長）　柔道整復師学科のカリキュラムについて

国が示す基準→９９単位、２７５０時間。

本校→１００単位、２８８０時間　本校は国が示す基準を満たしている。

カリキュラムについては、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で成り立っている。

接骨院の開業・介護・スポーツ分野等、学生の就職先は多岐にわたる。

２年次では、臨床実習において基礎的なものを実践できるかという部分に重きをおいて授業をしている。３年次については、国家試験を意識した授

業展開（画像診断含め、実技を結び付けていけるかどうか）に着目して授業展開をしている。
授業では科目ごとの対応や、授業後・放課後にも教員に質問したりと自主学習に励んだりする学生もいる。１人１人の学習レベルに合わせた教育指導を展開している。

（佐々木事務長）（３）教育目標の NO.⑤～⑭の項目について

⑤　キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

⑥　各分野の実習施設等の関係施設や各団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか。

⇒カリキュラムについては、国の方針や時代のニーズに沿った内容としている。また、教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会において、ご来校いただいている委員の皆さまの意見に基づいて編成している。

⑦　実践的な職業教育（実技・実習・演習・インターンシップ等）が体系的に位置づけられているか。

⇒４月２３日　　長野マラソンランナーサポート
６月５日～３０日　救急救命士学科３年生臨床実習
６月３０日　　救急救命士学科１年生　早期体験実習
８月２１日～２５日　救急救命士学科３年生救急車同乗実習②
（資料４　学事報告参照）

⑧授業内容の実施・評価体制はあるか。⇒学生自己評価シート

⑨職業教育に対する外部関係者からの評価体制はあるか。

⇒学校関係者評価委員会を年に２回実施している。

⑩　成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準は明確になっているか。

⇒基準は学則にて定めており、入学式の翌日に新入生に周知している。（学校要覧 P17 学則参照）

⑪　関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の資質向上のための取り組みが行われているか。

⑫　職員の能力開発のための研修が行われているか。

⇒全国救急施設協議会（JESA）、柔道整復師会の研修に積極的に参加するよう促している。今年度から、救急救命士学科の教員が週１回、相澤病院において研修をしている。次年度も他の教員の受け入れをしていただく予定。

⑬　人材教育目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。

⑭　関連分野における各団体との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。

⇒全教員が有資格者であることはもちろん､卒業生も多く就職していることから、学校のことをよく理解している。

（４）　学修成果

（佐々木事務長）①　就職率の向上が図られているか。

②　資格取得率の向上が図られているか。

③　退学率の低減が図られているか。

⇒担任制を設けており、何かあれば担任に相談できる体制を整えている。

④　卒業生や在校生の社会的活躍について把握しているか。

⇒卒業生の来校率が高く、来校時に現状報告を聞く機会がある。

⑤　卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。

⇒昨年度より「卒業生アンケート」を実施した。その結果を今後の教育活動に生かせるよう取り組んでいく。

（校　　長）　「卒後臨床研修」を実施している接骨院が県内でも数多くある。本校もその施設の一つではあるが、未だ実施に至っていない。

卒後臨床研修というものを卒業生にどのように促していくか、学科内で検討している。

（５）　学生支援

（佐々木事務長）　① 進路就職に関する支援体制について。

⇒国家試験対策・公務員試験対策を行っている。

②　学生相談に対する体制は整備されているか。

③　学生の生活環境への支援は行われているか。

⇒担任制を設けている。

④　学生に対する経済的支援体制⇒日本学生支援機構奨学金を採用している。その他にも入試の際に特待生制度による入学金減免制度を設けている。

⑤　学生の健康管理⇒毎年４月～６月に健康診断が実施されている。

⑥　課外活動⇒学生会活動（学園祭・サークル活動）

⑦　保護者と適切に連携しているか⇒５月・３月に教育相談、１０月に三者面談を実施しているほか、必要時には保護者と連絡を取り合っている）その他、新入生、３年生対象に保護者会を実施。（４月入学式・徽章授与式後）

⑧　卒業生の支援体制について

⇒国家試験不合格者に対しても、無償で授業を受講する機会を与えている。

⑨　社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。

⇒勤労学生控除・教育訓練給付金の認可を受けることができた。このような面から社会人学生の受け入れを積極的に行っていきたい。次年度は柔道整復師学科に１名社会人入学者がいる。

⑩　高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。

⇒中学校や小学校に向けた出張講座・ガイダンスを積極的に出席している。次年度より「接骨院インターンシップ」を取り入れる予定。

（６）　教育環境

（佐々木事務長）　①　施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

⇒限られた財源の中から、重要度の高いものから優先して計画的に実施している。

②　学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。

⇒救急救命士学科・・・４階実習室にてシミュレーション実習・病院実習（３年次、１か月間）

柔道整復師学科・・・附属接骨院にて、臨床実習を行っている。

③　地球環境に配慮した指導体制が整備されているか。

⇒エアコンの温度設定等、環境教育に努めている。来年度、国からの補助を受けてエアコン工事をするにあたり、「省エネ診断」を実施したところ「良好に管理されている」という評価であった。

④　防災に対する体制は整備されているか。

⇒防災対策として年に２回防災訓練を取り入れている。

（７）学生募集について

（佐々木事務長）　①　学生募集について適正に行われているか。

②　学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか。

⇒入試室を立ち上げ、全体計画を作成し学生募集に取り組んでいる状況。姉妹校（上田市）と本校の各学科の方針に基づいて、学生募集を実施している。その他にも学校訪問、資料発送等を行っている。

（資料５　学校法人成田会　学生募集全体計画　参照）

③　学納金は妥当なものか。

⇒物価高もある状況ではあるが、１７年間学費を上げていない。

（８）財務

（藤井事務局長）平成２８年度以降黒字を継続している。財政も安定してきている状況。学生充足率６０％以上を維持できるよう学生募集活動を行っていきたい。
財務情報公開については、HP にも掲載している。
（資料６　学校法人成田会　収支決算の推移　参照）

（９）法令等の順守

（佐々木事務長）①　法令、専修学校の設置基準等の順守と適正な運営がなされているか。
⇒設置基準に基づいて実施している。
②　個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか
⇒個人情報に関する規定によって定めている。
③　自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
④　自己評価結果を公開しているか。
⇒学校評価と教育課程編成員会においても同様の評価を実施している。自己評価については、HP 上にて公開している。

（１０）社会貢献・地域貢献

（佐々木事務長）①　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。
⇒出張講座・地域のボランティア活動・附属接骨院開院
②　学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。
⇒長野マラソンランナーサポート・柔道大会救護単位において単位認定検討中。

③　地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか
⇒今年度は８月２６日に元気づくり支援金を活用し、市民公開講座を実施した。来年度以降については予定していないが、今後検討していきたい。

４　今後の取り組み

佐々木事務長が令和５年度学事報告をもとに、今後の取り組みについて説明した。

３月３日　　柔道整復師国家試験
３月１０日　救急救命士国家試験
３月１５日　卒業式（卒業生・教職員・保護者・在校生）
３月２４日　柔道整復師国家試験合格発表
３月２９日　救急救命士国家試験合格発表

（宮 田 委 員）　令和５年度学生数は増加しているのは、皆さまの努力のおかげである。学校目標に「確かな専門性と豊かな人間性」という項目があるが、文章・漢字が書けない学生が増えている。日本文化に触れる機会がなければ、感性は育たない。

（ 校　　長 ）　文章が書けない、誤字脱字が多い学生が増えている。入学願書の書類の１つである「志願理由書」では誤字・脱字が多くみられる。３年生の就職活動における履歴書についても同様のことが言える。

現在の３年生は、コロナウイルスにより、高校３年生の春以降、部活動が全てストップしてしまった年代である。そのまま専門学校に進学し、この３年間においても外部との関わりが非常に少なく、人と関わるという経験が乏しい傾向があると考えられる。しかし、その中でも消防職員試験に合格した救急救命士学科の１８名においては、個人的な経験を積んできたのではないか。面接練習においても、不合格者と比較すると語彙力に明らかな差があると感じた。２年生にも志願理由書を記入させたが、まだまだ手直しの必要性を感じるため、半年後の公務員試験に向けて力をつけていきたい。

柔道整復師学科においても同様のことが言えるが、柔道整復師学科ではどのような就職対策をしているか。

（楢原学科長）　教科書の読み合わせをはじめ、積極的に発言させる等の対策をしている。

（石 坂 委 員）　保険の審査の際、文章の不備がとても多い。医学的見地から精査するよう書類を返却することもある。レセプトの長期理由と負傷原因はきちんと書けるよう学生にご指導いただきたい。

ボランティア活動について。実際に学生たちが救護活動をしてもらうことは非常にありがたいと思っているが、学生が救護活動を行う際、「救護」という括りではなく、「救護活動補助」というという形を推奨したい。学生は無資格なので見学・サポートという形で活動をしていただければと思う。

四　校長挨拶

中村校長より、貴重なご意見をいただいたことへの感謝と、変わらぬご指導へのご依頼を申し上げ、閉会となった。

五　閉会　佐々木事務長が閉会を告げた。